

## 委託訓練カリキュラム

訓練科名	介護初級科1		就職先の職務	介護関連の職種
訓練期間	令和7年5月21日 ～ 令和7年8月20日			
訓練目標	介護に携わる者が、基本的な介護業務を行うことができるよう最低限の知識・技術とそれを実践する際の考え方のプロセスを習得する。 ケア現場で役立つ高齢者介護（認知症介護）に関する基礎知識・技術とそれを実践する考え方を身につけ、チームアプローチに参画する一員として基本的なサービス提供ができるよう学習するとともに、高齢者介護に関わらず、障害者福祉に係る制度及びサービスを含めた福祉全般について学習する。			
取得目標資格	介護員養成研修介護職員初任者研修課程（訓練終了時に左記課程も修了） 同行援護従業者養成研修一般課程 ・認定修了証を取得できる教科①認知症サポーター研修			
受講対象者	介護職員として介護関連職種に就職を目指す求職者			
科目		科目の内容	時間	
訓練の	学科及び実技	介護職員初任者研修課程	職務の理解（6h）、介護における尊厳保持・自立支援（9h）、介護の基本（6h）、介護・福祉サービスの理解と医療との連携（9h）、介護におけるコミュニケーション技術（6h）、老化の理解（6h）、認知症の理解（6h）、障害の理解（3h）、こころとからだのしくみと生活支援技術（75h）、振り返り（4h） ※こころとからだのしくみと生活支援技術については、一部実技演習を含む。	130
		認知症サポーター研修	認知症高齢者の基礎的な関わり方・接し方を学び地域に周知できる人の養成をする。	2
		あいサポーター研修	様々な障害の特性を理解し、障害がある人が困っているときに必要な配慮ができて、あいサポート運動を地域に周知している人を養成する。	2
		障害者の特性の理解	知的障害、発達障害、精神障害、高次脳機能障害、内部障害等の障害の特性を学習する。	10
		中間考査（理解度テスト）	授業で学んだことについての振り返りをすると共に、個々の理解度を確認する。	3
		人権擁護と身体拘束について	1. 高齢者の虐待防止 2. 身体拘束に対する取り組みの適正化	2
		安全衛生	安全衛生について	2
		介護現場におけるデジタル活用	DXを利用した介護記録・介護ロボットの説明、活用、体験	4
		アンガーマネジメント	怒りの感情をコントロールするための手法を学習する。	2
		アサーティブコミュニケーション	就職先において「お互いを尊重しながら意見を交わすコミュニケーション」の手法を学習する	1
		感染症対策	コロナ、インフルエンザ等の感染症対策として「手洗い」等基本的な防止策を学習する	1
		社会人基礎講習	自己理解、職業意識、現場見学など仕事理解、接遇マナー、苦情対応	24
		就職支援	就職活動の進め方（キャリアデザイン、履歴書・職務経歴書の書き方、面接対応等）、修了評価	20
		小計	203	
内容	実技（演習）	介護技術の応用と振り返り	生活支援技術にて実技を学んでいるが、利用者個々にあった介護技術と振り返り	1
		実技テスト	快適な住環境整備・整容・移動、移乗・食事・入浴、清潔保持・排泄・睡眠	2
		パソコン基本操作と活用	パソコンの基礎的な取り扱い方 エクセル・ワード・パワーポイントの使い方	30
		同行援護従業者養成研修一般課程	1. 障害者福祉に係る制度及びサービスに関する講義 2. 視覚障害者の疾病、障害者等に関する講義 3. 基礎的な移動支援に関する講義 4. 障害者の心理に関する講義 5. 演習	28
		小計	61	
実技（職場見学等）	職場見学等（介護老人福祉施設、居宅介護事業所、グループホーム、障害者支援施設などのうちから2か所以上かつ6時間以上）	就労支援事業所（6h×2日） グループホーム（6h×1日）	18	
		デイサービス（6h×2日） グループホーム（6h×3日） 小規模多機能型居宅介護事業所（6h×2日）	42	
		小計	60	
		合計	324	
就職支援の具体的内容	キャリアコンサルタントの実施、当法人からの就職情報提供、ハローワークと連絡を密にし最新の情報提供を受ける、県社協から講和による福祉・介護の就職状況等の情報提供、訓練終了者から訓練受講時の体験談、履歴書の書き方、訓練終了後の就職支援等			
使用する機械器具・教材等	車椅子…3台、ベッド…2台、ポータブルトイレ…1台 寝具、オムツ、寝間着、杖 マウスコンピューター製R4年式パソコン（Windows11、Microsoft Office2024）			
備考	・上記訓練時間とは別に開講・修了に係る行事を行います。			